

No	テーマ	内容	対象者			大学等名称	学部	氏名		問合せ先
			小学生	中学生	高校生					
1	旅行・観光から見る日本の歴史	誰もが「当たり前」に行っている旅行・観光ですが、現代までのおよそ1000年の歴史の中で変化・発展してきました。「江戸時代の伊勢参詣」「修学旅行の起源」を中心にお話します。自分と歴史の接点を考える糸口になればと思います。（修学旅行の事前学習の一環としての講義を想定しています。）	—	○	○	香川大学	経済学部	教授	山崎 隆之	香川大学 地域連携推進課
2	地域福祉を考える	いま、地域福祉への関心、期待が高まっています。この講義では、地域福祉とは何か、なぜいま注目されているのか、私たちにできることは何か、などについて、自分たちが暮らしている地域の課題として、一緒に考えてみたいと思います。			○	四国学院大学	社会福祉学部	教授	石井 洗二	四国学院大学 入試課
3	私たちの暮らしと社会保障	公的年金は、老後だけでなく、若い時にも受け取ることができます。ホント！？と、疑問に思うかもしれません。このように、社会保障は高齢者だけが関係するものではなく、全ての国民が対象となっています。そこで、「私たちの暮らしと社会保障」というテーマで一緒に考えてみましょう。			○	四国学院大学	社会福祉学部	教授	李 静淑	四国学院大学 入試課
4	北欧フィンランドの社会福祉と日本	北欧のフィンランドは福祉先進国として知られていますが、その意味は福祉制度だけを見てもわかりません。社会福祉制度は、あくまで家族・政治・文化などを含めた社会全体の一環としてあります。フィンランドの社会福祉現場を訪ねた際の写真を交えながら、日本と比較しつつ、高福祉を可能にしている社会の仕組みを解き明かします。			○	四国学院大学	社会福祉学部	教授	片岡 信之	四国学院大学 入試課
5	心のセルフケア	心の健康を保つためには、筋弛緩法、呼吸法、リラクゼーションなど様々な方法があります。講義では、そのうちのいくつかの方法を体験します。また、心の健康のために大切な要素についてディスカッションをして、ともに学びましょう。			○	四国学院大学	社会福祉学部	教授	山口 孔丹子	四国学院大学 入試課
6	対人援助技術を学ぶ	イギリスの慈善活動からはじまり、アメリカにおいて体系化されたソーシャルワーク(個別相談援助)を概観しながら、主に援助者の視点や価値観、具体的な援助技法等について、実践例を用いて分かりやすく解説します。			○	四国学院大学	社会福祉学部	教授	西谷 清美	四国学院大学 入試課

7	子どもを虐待から守るためにできること	みなさんが将来親になった時、育児に関わることになった時、どのように子どもとかかわれば良いのか？実際に地域で保護者や支援者に実践されている親子関係支援プログラムを体験し、子どもたちを虐待から守るためにできることは何か考えます。 【使用機器】(パワーポイント使用)PC、プロジェクター、DVD			○	四国学院大学	社会福祉学部	教授	北川 裕美子	四国学院大学 入試課
8	かかわりを紐解く―援助・支援の仕組みと考え方―	精神障害者への援助・支援をベースに、多くの領域で活用できる人との関係の持ち方を分かり易く紐解きます。			○	四国学院大学	社会福祉学部	教授	富島 喜揮	四国学院大学 入試課
9	共生社会の実現を目指して	年齢や性別、属性や背景に関係なく、誰もが自分らしく、ともに安心して暮らせる社会の実現のために、社会福祉が果たす役割や方法、またその視点について考えます。			○	四国学院大学	社会福祉学部	教授	西谷 清美	四国学院大学 入試課
10	「子どもの権利」として位置づけられる課題を考える～子ども福祉を学ぶ意義～	皆さんは、子どもの権利条約をご存じでしょうか。子どもの権利条約は、国連により1989年に採択され、日本は1994年に、この条約を批准しました。子どもの権利条約で言う子どもの権利とは、子どもとして生きる皆さん(18歳未満)にとって、どのような意義をもたらしているのでしょうか。現在18歳未満である子どもや若者である皆さんにとって、自らを取り巻く生活上の問題の中には、子どもの権利として位置づけられるべき問題が横たわっています。 一方で、子どもの存在を守る立場にあるのは、家庭をはじめ地域で暮らすすべての人々であり、子どもに携わる専門職者(福祉、教育、医療等)などもあります。子どもの存在を守る大人は、どのような役割を担うことが求められているのでしょうか。この講義では、権利の保有者である子どもとしての立場、今後大人として生きる若者としての立場、それぞれの立場について、社会の一員として、考えるべき課題を学んでいただきます。具体的には、全体学習後に、グループに分かれて、課題に基づきディスカッション、発表などを通じて学ぶ機会を提供します。なお、学校や学年などの状況に応じてアレンジも致します。			○	四国学院大学	社会福祉学部	教授	野崎 晃広	四国学院大学 入試課
11	スクールソーシャルワーク～学校で子どもを支援するために～	現在の学校には、不登校、いじめ、非行、リストカット等、様々な形で支援を必要としている子どもがいます。スクールソーシャルワークとは簡単に言うと、学校のなかで様々な困難に直面している子どもたちを、子どもたちの側にとって福祉の視点で支える活動です。その特徴について事例を用いながらわかりやすく説明します。			○	四国学院大学	社会福祉学部	教授	浜田 知美	四国学院大学 入試課

12	心の科学	心理学とは何なのでしょう。人の心はどうやってしらべるのでしょうか。心理学のエッセンスに触れます 【必要な機材】プロジェクター、スクリーン、HDMIケーブル			○	四国学院大学	社会福祉学部	助教	森川 貴嗣	四国学院大学 入試課
13	子どもの貧困と社会的孤立：支援の現状と課	「子ども食堂」「フードドライブ」「学習支援」—これらの言葉を一度は見聞きしたことがあるのではないのでしょうか。本講義では、これらの取り組みの意義を理解しながら、地域社会全体で子どもの成長を支える取り組みについて考えていきます。			○	四国学院大学	社会福祉学部	教授	辰巳 裕子	四国学院大学 入試課
14	アウトドア系社会学～社会調査とフィールドワーク～	社会学って何？って思う方へ。社会学を支える社会調査とフィールドワークについて説明します。社会調査とフィールドワークのノウハウは社会学だけではなく、他の学問領域にも応用可能。また、社会に出てからも社会人生活を支え助けになる色々なヒントが詰まっています。			○	四国学院大学	社会学部	教授	関 泰子	四国学院大学 入試課
15	ソーシャルキャピタルからみる現代社会の変容	人間関係資本などとも称される様々な様態の「つながり」にスポットを当て、その社会的意味や歴史的変遷を概観しつつ、私たちが生きている社会の実情をひもといていきます。			○	四国学院大学	社会学部	教授	竹本 達也	四国学院大学 入試課
16	学力が低いのは努力不足のせい？—学力を社会的視点から見る—	これまで学力は、努力の量と比例すると考えられてきた/考えられている。ところが社会的には、子どもの学力は家庭の経済力や文化的環境とより強い相関関係があることがわかっています。今回、子どもの学力が家庭の経済力等とどのように繋がっているのか、データを基にして考えてみましょう。			○	四国学院大学	社会学部	教授	尾場瀬 一郎	四国学院大学 入試課
17	メディアを学問する	私たちの身の回りには、多種多様なメディアがあります。それらのメディアは、いつからあって、なぜそのような様態として存在しているのでしょうか。また、メディアは私たちの生活様式や考え方をどのように規定しているのでしょうか。この講義では、メディアについて、社会学やメディア論という学問から考えていきます。			○	四国学院大学	社会学部	准教授	福永 健一	四国学院大学 入試課

18	「推し」がいる意味	誰にでも何か「推し」があり、何かのファンです。わたしたちは日常的にSNSなどで「推し」について感想を見たり、言ったりしています。このような行為にはどのような「意味」があるのでしょうか。私達が日々触れる文化について考えながら、大学で行う「学び」や「研究」とは何かを一緒に考えます。			○	四国学院大学	社会学部	助教	板倉 享平	四国学院大学 入試課
19	テキストとして新聞記事をよむ	典型的な活字媒体である新聞は、ネットやSNSが普及した今日なお重要な社会的位置を占めています。しかしながら、いわゆる「活字離れ」といわれる現象の中でその位置が大きく変わりつつあるようにも思えます。そこでこの機会に、ごく基本的な読解の技法をいくつかみていきたいと思います。			○	四国学院大学	社会学部	教授	竹本 達也	四国学院大学 入試課
20	そもそもスポーツとは？これからのスポーツは？	スポーツは今や、私たちの生活のあらゆる場面で登場するようになりました。ですが、そもそもスポーツとはどのようなものなのでしょう。Electric Sports(eスポーツ)は野球やサッカーなど同じスポーツでしょうか、違うのでしょうか？これからスポーツはどのように変わっていくのでしょうか？この授業ではスポーツについて「ある問い」から出発し、パラ・スポーツにも触れ、今後のスポーツの姿を想像してみたいと思います。			○	四国学院大学	社会学部	教授	逢坂 十美	四国学院大学 入試課
21	フード・ツーリズム	日本における観光やレジャーの発展には「食文化」や「食環境」の繁栄が背景にありました。本講義では、「外食」の変化や受容の変遷を視点として、どのように「食の旅＝フード・ツーリズム」が誕生し現在に至ったのかを、かいつまんでご紹介します。			○	四国学院大学	社会学部	准教授	山中 大	四国学院大学 入試課
22	文系のための「平均」講	私たちの生活は数字に囲まれています。テストの点数や、ライブのチケット代、明日の降水確率…。しかし、我々は身の回りの数字の「意味」をきちんと理解しているのでしょうか。本講義では「平均」を中心に、文系にもわかる統計学を学びながら、大学での「数字」と「研究」の重要性を考えます。			○	四国学院大学	社会学部	助教	板倉 享平	四国学院大学 入試課
23	なるほど！スポーツトレーニング	みなさんが日ごろから取り組まれているスポーツトレーニング。なにげなく行っているストレッチングにも大切な意味があります。そんなスポーツトレーニングの世界を、探してみたいと思います。ひょっとすると、スポーツパフォーマンスアップにつながるヒントを、見つけ出せるかもしれません。面白く、楽しく、いっしょに学んでいきましょう。そして、健康・スポーツ科学分野により興味を持ってください。			○	四国学院大学	社会学部	教授	片山 昭彦	四国学院大学 入試課

24	スポーツ文化論	スポーツはいいもの！スポーツは素晴らしい！高校生の多くは、スポーツに対してこのような感情を持っているのではないのでしょうか。でも、それは本当ですか？スポーツをしているが故に感じる、つらい思いや経験もあるのではないのでしょうか…。実は、日本のスポーツ界は今もなお多くの問題を抱えています。こうした問題を抱えてしまう背景を学び、よりよい日本のスポーツ文化について考えていきましょう。			○	四国学院大学	社会学部	教授	近藤 剛	四国学院大学 入試課
25	ロジカル・シンキングとは	政治家の意見の真偽や政策効果を評価するような場合だけでなく、学校での課題探求学習や日々の生活においてもさまざまな決断や判断が求められます。正確に問題を整理し、一見正しそうに見える意見に惑わされることなくできるだけ正しい結論に至るために、論理的思考(ロジカル・シンキング)とは何かを基本から説明します。	○	○	○	高松大学	経営学部	教授	松繁寿和	高松大学・高松短期大学 入学センター
26	伝わるプレゼンテーション	プレゼンテーションの技術を教えます。特に、One Slide, One message や色調のあり方など、スライドの作り方の基本を教えます。また、ゆっくり話す、はっきり話す、やさしく話すなど、伝わるプレゼンテーションの仕方を指導します。	○	○	○	高松大学	経営学部	教授	松繁寿和	高松大学・高松短期大学 入学センター
27	大豆の数と民主主義：社会が正しい判断をするために、なぜ「みんなの参加」、投票に行くことが大事なのか	簡単な数当てゲームを楽しみながら、民主主義がなぜ大切なのか、なぜ投票に行かなければならないかを考えます。また、正しい情報が行き渡ることの大切さについても学び、マスコミの役割も考えます。	○	○	○	高松大学	経営学部	教授	松繁寿和	高松大学・高松短期大学 入学センター
28	SDGsって？	聞かない日はなくなった「SDGs」。みんな騒いでるけど、遠い世界の話だと思っている人も多いのでは？ホントのところどうなのでしょうねえ。自分事として学校で何ができるのか一緒に考えてみませんか？	○	○	○	高松大学	経営学部	准教授	平畑博人	高松大学・高松短期大学 入学センター
29	人権って何だろう？	国内外の代表的な人権課題について、その歴史や構造を概観するとともに、どのようにすれば解決に導くことができるのか、身近な問題を糸口にしなが解決策をみんなで考えていきます。	○	○	○	高松大学	発達科学部	准教授	高倉和弘	高松大学・高松短期大学 入学センター

30	漫才はどうやって生まれたか？	誰でも一度はテレビで漫才を見たことがあるでしょう。二人組が登場し、一方がとぼけたことを言い、他方がつつこむという「ボケとツッコミ」という役割分担もすっかりおなじみのものになってしまいました。しかし、これは昭和初期には「最新の芸能」だったのです。どんなふうに漫才は生まれたかを見ながら「お笑い」と社会についてお話しします。	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	教授	田保 顕	せとうち観光専門職短期大学 広報課
31	ストリートダンスから社会を考える	みなさんの中には習い事や部活動、または体育の授業として「ダンス」に取り組んでいる（または経験がある）方もいるのではないのでしょうか？近年メディアやエンタメでもよく見かけ、みなさんの身近になっている「ヒップホップダンス」や「ブレイクダンス」は、日本社会ではかつて「不良の文化」とされていました。社会から距離を置かれやすい「不良の文化」が、なぜみなさんの身近なものへと変容したのでしょうか？ダンスを通して、そのような社会の不思議さに迫ってみましょう。	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	助教	有國 明弘	せとうち観光専門職短期大学 広報課